

## 第19回まちの駅全国大会

# まちの駅全国フォーラム in Tokyo

【日時】2016年9月30日（金）～10月1日（土）

【会場】国際オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

【主催】全国まちの駅連絡協議会（東京都千代田区東神田1-7-10 KIビル3F 地域交流センター内）

【共催】まちの駅東京交流会、あらかわ区まちの駅ネットワーク 【後援】総務省、観光庁、健康の駅推進機構

## 全国まちの駅連絡協議会 総会

### 開会宣言

#### 上野春樹(全国まちの駅連絡協議会副会長)

ようこそお集まりいただきました。我々の福岡県甘木朝倉地域は、民間の店舗や施設が「まちの駅」に参加する始まりとなったところです。2001年にこの指とまれ方式でネットワーク型まちの駅の実験をしました。それにより裾野が広がり、設置される駅の数が増えました。

しかしながら、ここ数年は1500～1600駅で留まったままで、目標の3000駅には近づいておりません。今回が19回目の全国大会となりますが、ややマンネリ化が感じられるところです。

そこで、本日の総会では、硬直化をなくすために総会のあり方を大きく変える等、会則の変更案を提示させていただきます。しっかりとしたご議論をお願いして、これより開会と致します。

### 会長挨拶

#### 久住時男(全国まちの駅連絡協議会会長)

多くの皆様にお集まりいただきありがとうございます。本会場のオリセンは、東京オリンピックの選手村跡地だったところです。また、スポーツ庁が出来てちょうど1年、第1分科会にはスポーツ庁からも参加いただきます。

今回のフォーラムの目的は3つです。1つ目は、全国の「まちの駅」が交流し、お互いの実践活動とその知恵やノウハウを学び合うこと。2つ目は、「歩く」「出会う」「つながる」「伝える」をキーワードに、まちの駅と地方創生を考えること。そして3つ目は、東京に「まちの駅」を増やして、東京と地方との交流&連携を進めること、です。

現在、208市区町村に「まちの駅」が設置されています。1740市区町村の中ではたったの13%、まだまだ伸びしろがあると思います。昨年も109の駅が新たに参加してくれました。今日は、まちの駅設置を進めている宮城の加美商工会や広島の大野町商工会からも参加いただいています。

また、総会では会則の改定を提案します。協議会運営の活性化という課題の中で、年1回の総会で決議するというやり方には少し無理がある。運営会議を強化して、そこで議論して決議していく。各会員には決議事項を文書等で通知して、会員からの意見や提案も運営会議で検討していくことで迅速化する。そのために会則を見直したところです。

フォーラムでは、藤田とし子さんに「市民参加で作るまちの駅マップ」をテーマに講演していただきます。明日のお楽しみプログラムでも、引き続きマップづくりのワークショップを行います。各地のまちの駅でもマップを作る機会があるので、新しい知恵を学びたいと思います。

もう一つのお楽しみプログラムは、明治神宮を宮司さんに案内していただきます。神宮の森は、100年前は荒地だったところに鎮守の森をつくるという明確な意図と壮大な構想力を持って作られたそうです。現地へ赴き、先人の大いなる夢と知恵を学ぶ機会にしたいと思います。

今から2日間、有意義な時間を共有できますよう、よろしくお願ひ致します。

### 第19回まちの駅全国大会プログラム

#### <第1日目>

1. 開会 (13:20～13:30)
2. 総会 (13:30～13:55)
3. 基調講演 (14:00～15:00)

「マップづくりから始める住民参加のまちづくり」

藤田とし子氏（まちとひと感動のデザイン研究所代表）

4. テーマ別分科会 (15:15～16:45)

- ①まちの駅と歩くまちづくり
- ②まちの駅のおもてなしと観光戦略
- ③まちの駅のビジネスカ
- ④まちの駅の広域連携
- ⑤楽しく始めるまちの駅

5. 交流懇親会 (17:30～19:30)

#### <第2日目>

1. まとめのセッション (8:40～9:30)
2. お楽しみプログラム
  - ①まち歩きマップ作り講座 (9:40～11:40)
  - ②明治神宮の森の散策 (9:40～12:00)

総会

1. 平成 27 年度事業報告

- ・まちの駅設置数…208 地域(市区町村単位)に 1538 駅
- ・情報発信…HP、facebook、ニュースレター、アンケート調査
- ・交流…九州沖縄会議、オール栃木交流会、全国大会 in 富山
- ・連携…全国首長連携交流会、日本トイレ協会、等

2. 平成 27 年度決算報告

- ・収入 6,871,441 円、支出 7,189,005 円

3. 平成 28 年度事業計画

- ・「まちの駅」の基本の再確認、小さなおもてなし活動の推進
- ・“地方創生”に寄与する「まちの駅」活動の展開
- ・3000 駅を目指し、認知度を高める周知活動と設置促進
- ・上記を目標として、①情報の共同発信、②ネットワーク化推進と交流連携事業、③設置・運営に関する助言、指導、④その他「まちの駅」の発展に寄与する事業を行う。

4. 平成 28 年度収支計画

- ・収入 6,325,000 円、支出 6,325,000 円

5. 会則及び設置要綱の改正

会則と設置要綱の全面的見直しを行った。文言を分かりやすく改めるとともに、以下の変更を行った。

- ・全国大会に合わせた年度の半ばでの総会ではなく、年度初めに決議するために、書面による総会とする。
- ・総会の協議事項は運営会議で協議し、文書等で会員へ通知し、了解を得る。
- ・会員は、異議あるときは書面でその意思を表明する。
- ・運営会議は運営幹事により運営される。運営幹事はバランスを考慮して選出し、会長が委嘱する。

6. 運営幹事の選出

運営幹事は、地域や「まちの駅」設置数等を考慮して選出した。承認された運営役員体制は以下の通り。

会長		久住 時男
副会長	九州・沖縄ブロック	上野 春樹
	北海道・東北ブロック	稲生 孝之
運営幹事	北海道・東北ブロック	沼山 誠二
		小野寺 明
	関東・甲信越ブロック	福田 義一
		吉田 恵子
中川 一男		
北陸・東海ブロック	長谷川 栄久子	
	伏江 努	
	池田 安隆	
	渡辺 栄一	
中国・四国ブロック	関 幸彦	
	難波江 任	
九州・沖縄ブロック	下津 公一郎	
	岩切 正司	
	畠中 敏成	
監事	九州・沖縄ブロック	河井 達志
	関東・甲信越ブロック	阿奈 正子

次年度の全国大会予告

河井達志(全国まちの駅連絡協議会監事)

来年度は 20 回目の記念の大会ですが、まちの駅九州沖縄会議で全国大会を受けることにしました。9 月 29 日(金)、30 日(土)に、福岡市で開催します。

九州は厳しい状況が続いています。熊本地震は観光面でも大きなダメージをもたらしました。オール九州で、もう一度やり直して行かなければなりません。ぜひとも応援くださいますようお願いいたします。

会場は博多駅の福岡シティホテルです。利便はいいし、美味しい料理やお酒をご用意して皆さまをお待ちします。多くの方にご参加いただき、あわせて被災地にもお立ち寄りいただければ幸いです。

閉会の辞

稲生孝之(全国まちの駅連絡協議会副会長)

100 名を超える皆さんにお集まりいただき、総会も恙なく終えることが出来ました。ご協力、ありがとうございます。次回からは書面総会となりますが、どうぞよろしくお願い致します。

まちの駅も 20 年近く経ち、硬直化しているかもしれない、という指摘がありました。今日を機に、血の流れをサラサラにして、元気を取り戻していきましょう。今からフォーラムが始まります。後半は分科会もあり、熱い議論を期待しています。

それでは、以上を持ちまして、総会を閉めることと致します。



## 基調講演

### まち歩き MAP づくりから始める住民参加のまちづくり

藤田とし子氏(まちとひと感動のデザイン研究所)

全国から「まちの駅」実践者が集まる場に招かれて、楽しみにして来ました。まちの駅のみなさんの地域のコミュニティづくりに、少しでも参考になれば嬉しく思います。

私の地域活性化の活動は、2001年に柏市インフォメーションセンターをつくる時から始まりました。柏市の情報発信、まちに来る方の要望、「あったらいいな」の声を拾って形にするお手伝いをしました。

柏市は上野から電車で30分、人口41万人のまち。賑わい創出事業や集客イベントを展開しながら、首をかしげることが多くなりました。イベントの時だけ人を集めること



が地域の活性化になっているの？ 半年や一年準備をしてイベントを実施しても、翌日からは閑散として、元の木阿弥になってしまうことに疑問を感じていました。

### ＜イメージを伝える MAP づくり＞

そんな時、当時は立命館大学教授で、今は姫路市長の石見利勝先生のかつてのご講演内容を聞きました。石見先生曰く、「人はイメージにより行動する。地域活性化とは、用がなくても来なくなる、まちの人に会いたくなる、いずれは住みたくなる、そう感じる気持ちや空気を醸成する事業でなければならない」と。

他の町と比べて「人が少ない」という“数だけの物差し”で計るのではなく、住んでいる人が“潤った”と感知することが重要ではないか。数を求められるとたくさん人を集めようとするが、通りすがりの人を増やすのではなく、何度も来てくれる人を増やすことこそ重要であり、イベントを機会に柏の魅力伝えて、その後も何度も来てくれる「まちのファンづくり」をゴールにするべきだ。柏市に来る理由を「便利だから」ではなく、「好きだから」に変えていかないといけない、と気が付きました。

柏市ではイメージアップ推進協議会を立ち上げ、「このまち良いね」と感じるイメージアップ事業を展開。ボランティア案内人を市民公募したところ、高校生から80歳代までが集まりました。それぞれのバックグラウンドが違うし、エリアによる情報が違います。彼らの情報の共有化を考えました。次の機会にも来てもらうため、住んでいるから分かる「おせっかい情報」を来街者へスマートに伝達するにはどうすればいいか。全国各地の観光マップを集めてチェックすると、目的地に行くためのルートばかりで、無機質なイメージ。そこで、実用的な価値ではなく、行ってみた

雰囲気や印象、人との会話、感情を盛り込んだまち歩きMAPづくりを2002年からスタートさせました。

MAPを作る上で大切なことは、予算を大きくとらないこと。お金をかけないために、A3サイズの上質紙にインクも1色で作る、色紙や濃淡で工夫する。デザイン、イラスト、印刷も地元の人と一緒に学びながら取り組んでいくことで、次から自分たちで出来るようにする。それにより、数万円の経費を調達出来れば、持続が可能になります。

地方では、歩いて調べると言う「えっ」という方が多い。歩くことには意味がないという感覚です。車で移動する風景と歩いて見る風景ではまちの様子が全く違うので、「久しぶりに歩いて見よう」と説得して、ピクニック感覚で実施します。すると、歩きでなければ見えない風景、出会った人との会話の楽しさ等々、いろいろな発見をして、子どものように興奮する人もいます。そこで、発見したことを自分の言葉で書いてもらいます。

### ＜MAP 作成の事例紹介＞

#### ①柏おもしろ MAP

柏市内のラーメン MAP と裏路地文化を紹介するウラカシ MAP。写真で見せるのではなく、言葉で伝えるようにすると、クチコミがうわさを呼んだり、マスコミにも載ったり、イベントも仕掛けて、ブームが到来。賑わいと回遊性が生まれ、空き店舗の解消になっています。

#### ②尾鷲市のまちの駅 MAP

三重県尾鷲市は人口が激減している漁業のまち。集まったメンバーは女性ばかりで、良いところは全然ないという話し振り。誇りと愛情を伝える、自分の思いを自分の言葉で書く。名所旧跡だけではなく、その時の空気、よく降る雨、車が通らない国道も良いところとして、尾鷲らしさを084ヶ所(おわしえ)探してMAPに載せました。

まちの駅メンバー間の横串を指す、ネットワークづくりに使う目的でMAPを作りました。Tシャツ、さんまを干したデザイン、マックもスタバもないので、おわせ棒のラリーというアイデアも出ました。



#### ③会津若松市の MAP

福島県会津若松市で、小学生と一緒にMAPを作るという無謀な企画。まち歩きをして、子供が喜んだのは信金の

金庫内見学と 1000 万円の現ナマを持った時のみ。「古い」「さびしい」「元気がない」商店街には来る気がしないとつまらなそう。そこに、よみがえる商店街、見違える商店街、かえる商店街...「かえる」というキーワードで子供が急に元気になった。空き店舗でカフェがしたいと「カフェほんまちよみがえる」をオープン。かえるパン 200 個を焼いたり、レトルトの「かえるカレー」を開発したり、かえるホットケーキなど、子供たちのアイデアを、商店街とまちづくり会社が形にしました。テレビでも放映され、商店街に人が来るようになり、地域の方やお客さんからもいろいろな提案が出始めました。商店街を舞台にして、みんながステージに上がって躍る場になったのです。子供目線は厳しい言葉が返ってきますが、地域の強みと弱みを見直す棚卸作業になりました。年寄りばかりで「諦め感」が満ちていた商店街が、「子どものために自分たちも何かしなければいけない」という話し合いを始めて、おもてなしができる商店街、店づくりにつながっています。



#### ④栃木県那須塩原市 黒磯駅前商店街

新幹線の開通により、かつての中心市街地から人影が消えてしまった黒磯駅前商店街。昭和レトロな街並みが楽しいが、人がいないので説明が聞けない状況。そこで、商店街の奥様達で、女性目線で取材をしました。お互いに「何でも知っている」と言っていたのが、取材だからと土蔵の中や仏間、奥の間まで見せてもらいビックリ、目から鱗のことばかり。それを形にする MAP を完成させました。

今まで女性はアシスタント扱いで、ここまで自分が主になってものを形にしたことがなかったという満足感。MAP を片手に、宇都宮から来る方も増えました。

#### ⑤松山市大街道、道後温泉

商店街女子部が女性の視線で MAP を作った『美商女マップ』。ユニークなキャッチコピーに、マスコミが殺到しました。

空港で『美商女マップ』を配布して、店に戻ったら行列ができていました。出張中のビジネスマンが大勢お昼を食べに来たそうです。



#### ⑥岐阜県飛騨市古川町

目立たないが、素晴らしい匠があり、伝統的建築の家が立ち並ぶまち。「まちは大好き、良いところだけど...」、よそとばかり比較して、「うちはダメなんだ」と萎縮している状況からスタートしました。

公募して集まった女性 7 名で、「しゃべりばち☆おとめの会」を発足しました。2 つの酒蔵と祭りを大切にしているので、行きつけの居酒屋マップを作成、自分の言葉で、どれくらい好きなのかを紹介、熱意を伝えるようにしました。MAP ができると、MAP を持って新規の客が来るので周りもビックリ。女性ばかりに頑張らせておいていいのか、働き蜂も頑張ろうと、店主もやる気になって、バルを始めたり、まちゼミを始めたり、飛騨弁が難しいということで、手作りの飛騨弁メモを作って 200 円で売ったら 100 冊が即完売したり。結果として 10 万円の収益が出て、次の事業の資金が出来ました。



#### <まちづくりはサードプレイスづくり>

アメリカの社会学者が提唱した都市の魅力を高める概念に「サードプレイス」という都市計画用語があります。

ファーストプレイスは、家庭やふるさとなどの「暮らしの場」、セカンドプレイスは職場や学校など「自分が活躍する場所や所属団体」、サードプレイスは「心地よい、人生が輝く場所」です。必ずしも必要ではないけれど、心がホッとすると、遠回りする道のポケットパークのような第 3 の場所を作るという概念です。「まちの駅」は、来街者にとって「つかの間の居心地に良い場所」、住んでいる人の心安らぐ場所を提供し、駅どうしが連携することで、まち全体が市民のサードプレイスになるような場所づくりをしていくことではないかと思います。その「まちらしさ」をどう磨いて発信するかが重要です。

市民参加の MAP づくりは、当たり前風景の中に潜んでいる「感動の原石」を掘り当てて、自ら磨いて、来街者、知らない人に手渡す作業です。作業によってまちを愛する気持ちや愛着が沸き立ち、響き合って広がっていきます。

50 地域以上で 70 の MAP や情報誌を作ってきた経験から言えることは、まち歩き MAP は、地域を元気にする最初の一步だということ。取り組みの中で気が付いたら、それぞれの思いから様々な活動やネットワークが生まれていきます。まずは住んでいる方が、地域の誇りと愛着を感じて、それを育てていく、そこが最初のまちづくりではないかと考えています。

## 1. まちの駅と歩くまちづくり

### <事例報告>

#### ①スポーツによる地域活性化の取組み

川田耕二氏（スポーツ庁健康スポーツ課課長補佐）

- ・スポーツ庁は、スポーツ基本法の趣旨を踏まえ、スポーツ行政を総合的、一体的に推進するために設置。
- ・他省庁と連携して、健康寿命の延伸・医療費抑制（厚労省）、地域社会の活性化（国交省、農水省、環境省）、国際交流・国際貢献（外務省）、国民経済の発展（経産省）等、多様な施策を展開している。
- ・スポーツによる地域活性化推進事業では、ウォーキングなど、スポーツを通じた健康増進の意識の醸成、運動やスポーツへの興味を喚起するための取り組みを支援している。



#### ②かぬまのまちの駅めぐり

佐藤永子（まちの駅ネットワークかぬま）

- ・鹿沼の「まちの駅」103ヶ所を巡るスタンプラリーを実施。台紙を配布し、スタンプを集めると賞品を進呈。
- ・9月18日にキックオフイベントとしてウォークラリーを実施。ガイドによる説明のほか、紹介された古い写真に写っている電灯が今も残っていたり、彫刻屋台の解体現場に遭遇したり、楽しいまちの駅巡りとなった。

#### ③WALK21 in ウィーンでのまちの駅報告

吉田恵子（まちの駅ネットワークとちぎ）

- ・昨年10月、WALK21（歩くことを主体にしたまちづくりを考える国際会議）に参加、まちの駅を報告した。
- ・ウィーンは歩きやすいまちで、目抜き通りは毎日歩行者天国、公共交通も充実している。ただし、ベンチはなく、公共のトイレは有料。施設内のトイレは無料であるが、地下にあることが多く、バリアフリーの配慮がない。
- ・まちの駅が評価された点は、草の根の運動であることと、トイレを無償で貸すこと。トイレは、まちを安心して歩くための必須アイテムであることを再確認した。

### <グループワーク&まとめ>

#### ①歩くことのメリット

- ・ゆっくり&コミュニケーション。偶然の出会いや発見。
- ・緑の重要性。道端の花から森の恵みまで季節を感じる。
- ・健康第一。楽しいおしゃべりの場、歩く友達づくり。

#### ②歩くまちづくりを進めるために

- ・おもてなし…郷土愛、見えないおまけ、語りかけ。
- ・案内…まちの標識、歴史や季節を伝える。MAP作成。
- ・遊び&学び…偉人を訪ねるイベント、ポケモンGO、等。
- ・コンパクトシティ…循環のまち、パーク&ライド。
- ・仲間…一人ではない、まちの駅同士の団結、協力。

## 2. まちの駅のおもてなしと観光戦略

### <事例報告>

#### ①観光振興に関する今後の取組み

平林剛氏（観光庁地域観光振興課課長補佐）

- ・日本の観光の現状は、昨年はインバウンド1974万人、東北震災の年622万人の3倍。今年は8月時点で1600万人、前年の24.7%増である。内訳は、中国が1420万人、次いで韓国、台湾と、東アジアで7割を占める
- ・外国人の消費額は昨年度3兆4771億円、うち中国人が1兆4074億円。日本の定住人口一人当たりの年間消費額は125万円であり、旅行者に換算すると、外国人旅行者が8人泊まれば達する数字。国内の宿泊旅行では25人、日帰り旅行者では80人となる。
- ・交流人口の拡大が地域の活性化につながる。少子高齢化の中で、経済効果の高い観光に力点が置かれている。
- ・「明日の日本を支える観光ビジョン」では、観光先進国を目指して、「オリ・パラ後の観光振興」「多言語対応の強化」「外国人対応観光案内所の強化」「宿泊施設対策」等が進められる。
- ・支援事業として「地方創生拠点整備交付金」「観光地域ブランド確立支援事業」「地方創生推進交付金」等、いろいろな交付金が出ている。

### <全体意見交換>

- ・観光庁の観光戦略を伺ったが、現場が分かっている「まちの駅」から提案していかないと動かない。
- ・観光資源が乏しいまちなので、まちの良さを地元の人が認識しないといけない。まちの駅巡りのバスツアーを開催しているが、市民からは好評を得ている。
- ・外国人向けにロードバイクのレンタルをして、ガイドを付けて、田舎道をサイクリングする事業を準備中。
- ・観光案内所よりも、まちの人たちからの情報発信が、目に見えない「おもてなし」として観光客に伝わるのではないかと考え、「まちの駅」に取り組んでいる。
- ・2020年の東京オリンピックに向け、「まちの駅」が交流人口に寄与するのではないかと。日常の大切さを見直すとともに、よそ者の目で地域資源を洗い出したい。
- ・全国フォーラムの議論が、毎度のように時間切れになるのはもったいない。
- ・初参加だが、いろいろな話に可能性を感じて刺激になっている。仲間づくりの場として元気がもらえている。



### 3. まちの駅のビジネスカ

#### <事例紹介>

#### ①堂脇忠男（鹿児島まちの駅連絡協議会北薩ブロック）

・「まちの駅」の仲間 6 人で、着物を着て出水武家屋敷を歩く会を発足。着物、帯はリサイクル品、着物、帯、足袋は持ち帰り。長襦袢、履物、小物のレンタル、お薄のもてなし代金を含め 5 千円。2 時間から 3 時間。

・20～30 代の女性客、海外からの観光客、リピーターも増加。市の観光課が地方再生プロジェクトとして注目、広報等に協力。石破地方再生大臣も視察。



・課題は、リサイクル着物、特に男性用着物の確保。着付けを行う女性スタッフの若手後継者の育成。他の観光スポットとのツアープラン、新たな体験ツアーの創生。

#### ②勝山市まちの駅ネットワーク（まちナビカード）

- ・各駅が名刺大のカードを作成。「まちの駅」49 か所のうち、22 駅が加盟。カードの表には、まちの駅の内容、利用時のクーポン内容など、裏には案内地図を記載。作成費用は各駅が負担し、補助金をもらわないで運営。
- ・カードは集客力のある「県立恐竜博物館」に専用ラックを設置し、来場者が自由に持ち帰っている。配布枚数は年平均 7 千枚。多い駅は 9 千枚に上る。
- ・来店客が増加した店もあるが、効果がないとして退会する駅もある。参加者を増やす方向で頑張っている。

#### <グループワーク & 全体討議>

- ・まちナビカードは、黒部や見附でも実施。黒部では、印刷コストがかさみ、補助金をもらっているが、ベネフィットと引き合わない。見附も市から補助が出ている。
- ・交流人口を増やすのはいいが、基本的には来てくれた人をいかにもてなすかが大切。「良いおもてなしだった」「また来てみたい」という口コミを大事にしたい。
- ・成功事例をそのまま取り入れてもうまくいかないのでは。スタンプラリーやアンテナショップも、なかなかビジネスに結びつかない。感動を強めるような仕掛けが必要だ。
- ・「まちの駅」の全国のネットワークを生かしていくことが重要。鹿児島では震災を機に防災ネットワークの物産展を開催、他の「まちの駅」からも出品してもらった。
- ・見附では、春の物産フェアでスイーツ・セットをつくった。それに味噌汁をプラスしたセットをつくったところ好評を博した。自分のところの商品に他の地域の製品を組み合わせたらいいものができるのではないか。
- ・全国の「まちの駅」で利用するとポイントがもらえ、利用できるようなクレジットカードができないか。

### 4. まちの駅の広域連携

#### <経過報告>

#### ①赤崎隆三郎（全国空港のある地域連絡協議会）

- ・3 年前に LCC が開通し、成田と沖縄、千歳が格安で行き来できるようになった。交流を始めて、隣町になった。共通の課題は“素通り客”が多いこと。成田、霧島、千歳で、素通りさせないための発信を始めた。
- ・2 年前に「全国空港のある地域連絡協議会」を発足させ、福岡空港、阿蘇熊本空港、松山空港など、まちの駅がない地域に「まちの駅」を作る作業を行ってきた。
- ・「空の駅」ネットワークを構築し、「道の駅」とつなぎ、さらに「まちの駅」とネットさせていきたい。そのための「新たな観光ストーリー」を作る計画である。

#### ②住永豊武（熊本交通運輸株式会社会長／空の駅くまもと）

- ・熊本県益城町から来た。熊本地震により、まちの中心市街地の殆どがつぶれてしまい、ようやく解体作業が始まったところ。本業は運送業であるが、全国からの緊急支援物資を 11 万人の避難者へ輸送する指揮をとった。
- ・被災して、つくづく「日本はいい国だ」と感じた。知らない方々が物資を送ってくださる。多すぎて管理に困って、迷惑なほどだが、ありがたい。自衛隊による救助と復旧作業、日赤を中心にした医療班の治療とメンタルケア、民間のボランティアでは東北地方からも来ていただいた。互助の精神に助けられ、この国を誇りに思った。

#### <全体情報交換>

- ・成田市では、毎年「成田伝統芸能まつり」を開催し、全国の祭りや芸能関係者に来てもらっている。成田市のパンフレットには「東京へは成田経由で」と言って、東京出張に成田空港を利用してもらう PR を始めている。
- ・千葉県東金市では、商工団体や役所、様々な業態を巻き込みながら「まちの駅」のネットワーク化に取り組んでいる。成田には車でないと行けないので、とても遠い感覚だが、圏央道がつながれば空港までの距離が一気に縮まり、その先の空港のある地域との距離感も近くなる。
- ・茨城空港は、本数は少ないが沖縄や神戸とつながっている。茨城空港からの交通は、私鉄が廃線になったため、石岡市までバスでつないでいる。
- ・佐賀空港から LCC の格安セールを使って、往復 5000 円で東京に出張している。佐賀空港は駐車場が無料であり、24 時間で 1000 円のレンタカーもある。
- ・佐賀県唐津市は福岡空港から地下鉄で直通。最短 69 分で到着する。空港を活用した広域連携を進めていきたい。



## 5. 楽しく始めるまちの駅

### ・・・まちの駅の基礎講座&お悩み相談

#### <事例紹介>

#### ①あらかわ区まちの駅ネットワーク（小林清三郎）

- ・地元を元気にしたいと「まちの駅」を始めたが、失敗の歴史である。荒川区には名所がないとの意見が多かった。そこで、手書きマップをもとに、まち歩きを始めた。
- ・今年は、「俳句 de あらかわ名所づくり」イベントを開催し、みんなでまちを歩き、俳句をつくることを展開している。吟行を5回行い、200句が集まった。1000句になったらまちづくりマップにまとめ、一段階登りたい。

#### ②まちの駅ネットワークほんじょう（阿奈正子）

- ・まちの駅が出来て10年、最初の31駅から現在64駅。行政には「まちの駅」のチラシを全戸に配布頂いた。
- ・ケーブルTVの報道で、「まちの駅」の宣伝をして頂き、動画をYou-tubeに載せている。Facebookでも発信。JCによる「まちの駅シンポジウム」や「たまり漬け一座」による「まちの駅」公演なども実施。
- ・多様な業種が「まちの駅」になっており、2カ月に1回の駅長会議とそのレポートでみんなをつないでいる。

#### ③富士市まちの駅ネットワーク（渡辺栄一）

- ・12年目で駅数は60以上になった。順調に来たが、若干マンネリや温度差も出ている。継続的イベントが積み上がり、お寺も5寺と多い。3ヶ月に1回の駅長会議。
- ・マンネリ打開策として、全国大会に参加し、各地の仲間との情報交換で、新たな活動のヒントが生まれてくる。

#### <全体意見交換>

- ・富山県は世界遺産が3つもあり、マップ作りを進めている。市レベルから県全体の協議会へと広がっている。悩みは多いが、昨年大会と新幹線効果で順調に進展。
- ・加美町では商工会が「まちの駅」を仕掛けて、行政を取り込みつつ、スタートに向けて準備しているところ。
- ・「道の駅」に認定されなかったので、「まちの駅」を7駅からスタートした。情報ネットワークの作り方が課題。
- ・観光客が多い安芸の宮島の対岸にある町で、これから「まちの駅」を始める。全国フォーラムは大変参考になる。
- ・まちの駅をめぐるバスツアーでPRイベントを行うと、大変興味を持ってもらえる。「まちの駅春の物産祭り」では、全国のまちの駅の物産をPRしている。30分で売り切れた時もある。各地の出店を展開したい。

- ・5つの合併でできた市で、まちの駅は3年目。全国大会に参加し、たくさんの情報を頂くことができた。



## 交流懇親会

分科会終了後は、カルチャー棟2階の「レストランとき」で、交流懇親会を行いました。

あらかわ区まちの駅ネットワークの小林清三郎代表による乾杯の音頭で始まりました。また、熊本県益城町から参加の「空の駅くまもと」の住永豊武さんより、被災地の現地報告と感謝のメッセージをいただきました。



しばし歓談の後、各地から集まったまちの駅関係者から、都道府県ごとに挨拶や近況報告を行いました。



久住会長と新潟県のまちの駅メンバー



黒田原まちの駅の江部駅長の爆笑スピーチ



本庄名物



九州・沖縄のまちの駅メンバーが来年の全国大会のPR

お仕舞いは、江戸川区「パンの駅小松川」の原芳伸さんが景気よく三本で締めて、会はお開きとなりました。

## 1. まち歩きマップ作り講座

藤田とし子氏(まちとひと感動のデザイン研究所)

2時間のWS(ワークショップ)で「まち歩きMAP」のすべてを伝授できないので、取材の仕方を中心に説明いただいた。6~7人のグループに分かれて、WSを実施した。

### ①自己紹介のワーク

- ・自分を食ベモノに例えて、「美味しい〇〇さんの取扱説明書」という形で自己紹介。配付された用紙に、自分で考えた食品名・産地・消費期限や、特長・用途・この商品(=私)の上手な使い方等を記入して発表し合う。
- ・アイスブレイクがねらい、場を温めるネタとして記入。まじめに考えると苦しくなる。他の方法として、自分を動物に例える、最後の晚餐の紹介など、普通の自己紹介ではなく、遊び心の入った自己紹介で場を和ませる。

### ②取材カード作成のワーク

- ・自分のまちの「とっておき」を記載する。住んでいるから分かる場所やもの、好きなところ等、主観で選ぶ。
- ・タイトルを工夫すると良い。誰も知らない場所に、みんなが行って見たくなるような記載を考える。

### ③発表のためのグループワーク

- ・まずは、チーム名を書く。取材カードを使って、お互いに発表し合う。その中からベスト3のカードを決める。ネタとして面白いものを選んで、ベスト1.2.3を選ぶ。
- ・ベスト3を選んで模造紙に貼って、その周辺に、その他のカードを貼る。

### ④グループごとの発表

- ・タイトルのひねりが重要。よく分からないタイトルの方が、確かめてみようという気にさせる。



### ⑤まとめと提案

- ・「まち歩きMAP」は、地域の声を集めて、新たなまちの資源、魅力を発見するためのツール。来訪者とのコミュニケーションのきっかけ、人繋ぎのツールになる。
- ・重要なのは、作り手、発信する側の気づき、作業によってできる仲間、まちを愛する気持ち、このまちをもっとよくしたいという思い、誇り、愛着を生み出すこと。
- ・地域に何もないと考えず、「まちの褒め褒めMAP」を作る。どのまちにも、名もなき人の暮らしの中で築いてきた歴史がある。
- ・マンネリ化の解消については、「とっておきカード」を活用して取材イベントを行ってはどうか。すぐにMAPにするのではなく、まずは瓦版にして発信する。1年後に溜まったものの中から選んで、改めてMAPにする。全国の「まちの駅」で行って、その中から「キングオブまちのとっておき」を選出する、等。

## 2. 明治神宮の森の散策と解説

田中昌之氏(明治神宮管理部管理課主幹)

西参道から入園し、明治神宮神楽殿に集合。田中昌之主幹の引率で2時間ほど案内をしていただき、表参道(原宿口)で解散した。参加者は事務局含め25名。

- ・「明治神宮の森」は御祭神(明治天皇、昭憲皇太后)を祀る鎮守の杜。野生生物の棲家、都会の憩い、癒しの緑となっている。
- ・明治神宮の総面積は70ha、うち森林は50ha、森林率は70%。森の構造は、針葉樹と広葉樹からなる。広葉樹は常緑広葉樹と落葉広葉樹が存在している。
- ・構想段階では、主木林として大隈重信内相が「神様の木」だからとして杉林を主張したが、帝国大学の本多静六教授ら当時の林野の専門家は、この土地に最も適合した生態系として広葉樹を主張し、現在の形となった。
- ・樹木は、台湾等植民地を含め、全国各地から寄付。広葉樹、針葉樹と多くの種があったが、その後、地球温暖化から広葉樹、中でも南方のカシ、シイ、クス等が樹勢を拡大、優勢となっている。
- ・第2次大戦の戦災で社殿は火災にあったが、森はほとんど延焼しなかった。
- ・森を見るときは、陰樹、陽樹との関係、高木、中高木、低木、つる、草本と見ていく。
- ・森の役割・働きには、バイオマス生産、水土保持、環境形成(静寂、季節感、癒しなど)、生物多様性保全(オオタカ、青大将、ミナミメダカなど)、炭素の大量押し込みなどの機能がある。「明治神宮の森」は、都会にあって、その機能価値が高く評価されている。



### 編集後記

平成28年度「第19回まちの駅全国大会」の報告書をお届けします。今回は「まちの駅」の“マンネリ化”や“温度差”が、開会とともに課題として提示されました。総会では会則の改定も行われ、一つの節目の大会となりました。竹のように節目によって強靭さを増す、そんな「まちの駅」になることを心掛けたいと思います。

